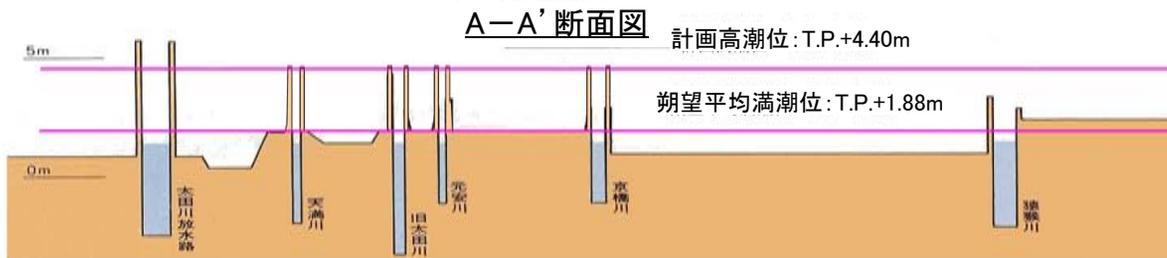
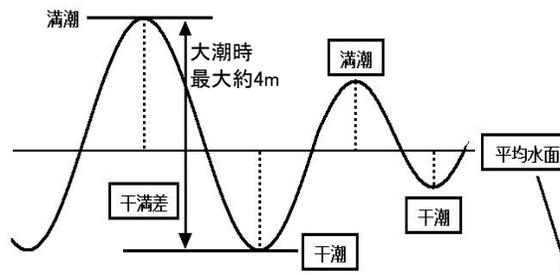
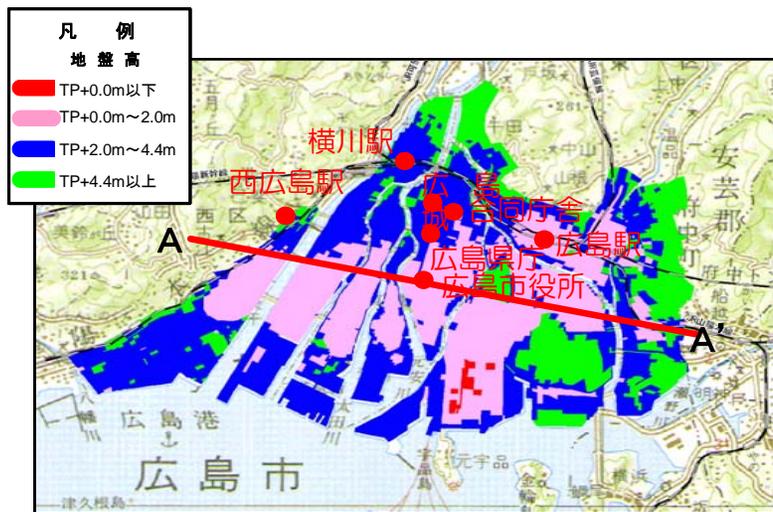


16.1 高潮に対し脆弱な市街地

- 広島市中心部の地盤が低いため、常時から被災しやすい環境
- 広島湾は南に向いており、台風の吹き寄せの影響を受けやすい
- 広島湾は瀬戸内海で最も干満差が大きいいため、満潮と高潮が重なると被害大

高潮に対して脆弱な市街地

- ・ 広島市中心部の地盤が低いため、常時から被災しやすい環境
- ・ 広島湾は南に向いており、台風の吹き寄せの影響を受けやすい
- ・ 広島湾は瀬戸内海で最も干満差が大きいいため、満潮と高潮が重なると被害大



増加する厳島神社の冠水頻度

- ・ 近年の海面水位の上昇傾向や、黒潮流路の蛇行による異常潮の影響により、瀬戸内海における潮位は高くなる傾向
- ・ 上記により厳島神社の冠水頻度は近年急増

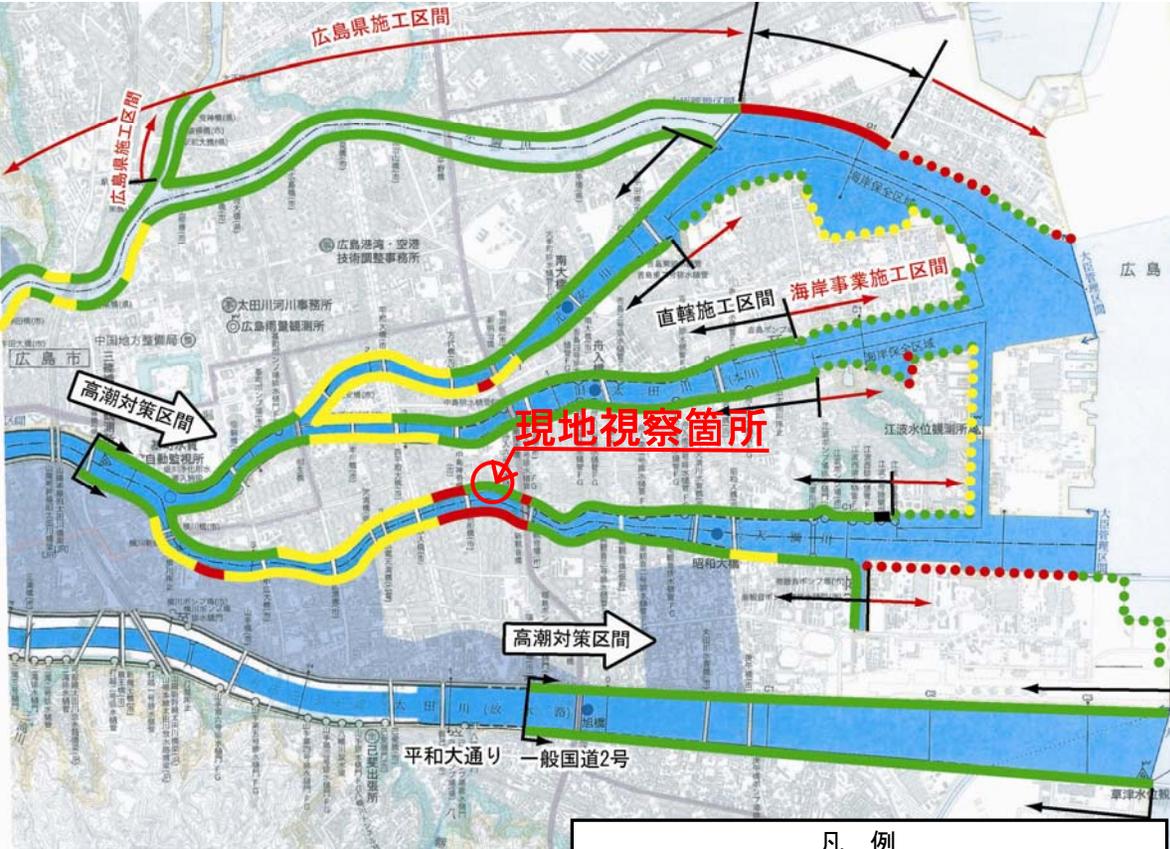
異常潮位により冠水する厳島神社の回廊

厳島神社回廊の冠水回数の推移 (社務日誌より整備局で作成)

年次	冠水回数
H1	1
H3	1
H5	4
H7	1
H9	3
H11	3
H13	12
H15	11

16.2 高潮堤防の整備水準

- 広島湾の高潮対策は、三大湾(東京湾、伊勢湾、大阪湾)の整備水準に対し著しく遅れている
- 直轄施工区間における進捗率は過去最高の高潮対策(T.P.3.4m)で90%、計画高潮位対応(T.P.4.4m)で46%、完成堤区間は0%
- 河川管理者、海岸管理者が一体となった整備が必要



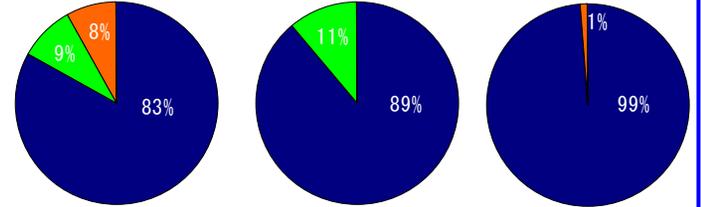
T.P.+3.4mの全体計画延長に対する整備水準

国管理河川	T.P.+3.4m	T.P.+4.4m
全体計画延長	10.9	28.3
整備延長	9.8	16.2
進捗率(%)	90	57

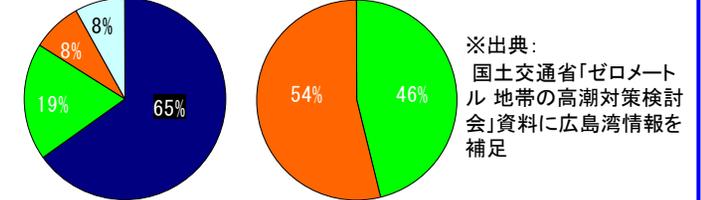
平成17年度末時点
 ※ T.P.+3.4mの全体計画延長は再度災防止区間延長

三大湾と広島湾の高潮対策の整備状況 (堤防の高さ)

・高潮対策は一定の成果が見られるが、整備水準は全国に比較し遅れている



【東京湾: 307km】 【伊勢湾: 141km】 【大阪湾: 182km】



【全国: 15,061km】 【広島湾: 68km】

※出典:
国土交通省「ゼロメートル地帯の高潮対策検討会」資料に広島湾情報を補足

※平成3年、平成11年、平成16年の高潮災害を鑑み、第2段階(T.P.+3.4m)整備を優先して概成、河口域から順に第3段階計画高潮位(T.P.+4.4m)対応を実施中

凡例	
— (黒)	: 堤防高 完成(計画)堤防高以上
— (緑)	: 堤防高 T.P.+4.4m以上
— (黄)	: 堤防高 T.P.+3.4m以上T.P.+4.4m以下
— (赤)	: 堤防高 T.P.+3.4m以下
●●●● (緑)	: 海岸保全施設 T.P.+4.4m以上
●●●● (黄)	: 海岸保全施設 T.P.3.4m以上T.P.+4.4m以下
●●●● (赤)	: 海岸保全施設 T.P.+3.4m以下

凡例			
■ (黒)	: 堤防高が充足	■ (緑)	: 暫定的な計画高潮位対応
■ (赤)	: 堤防高が不足	■ (白)	: 不明

16.3 台風18号(H16.9.7)が1週間前(H16.8.30)の大潮の満潮と重なったら！

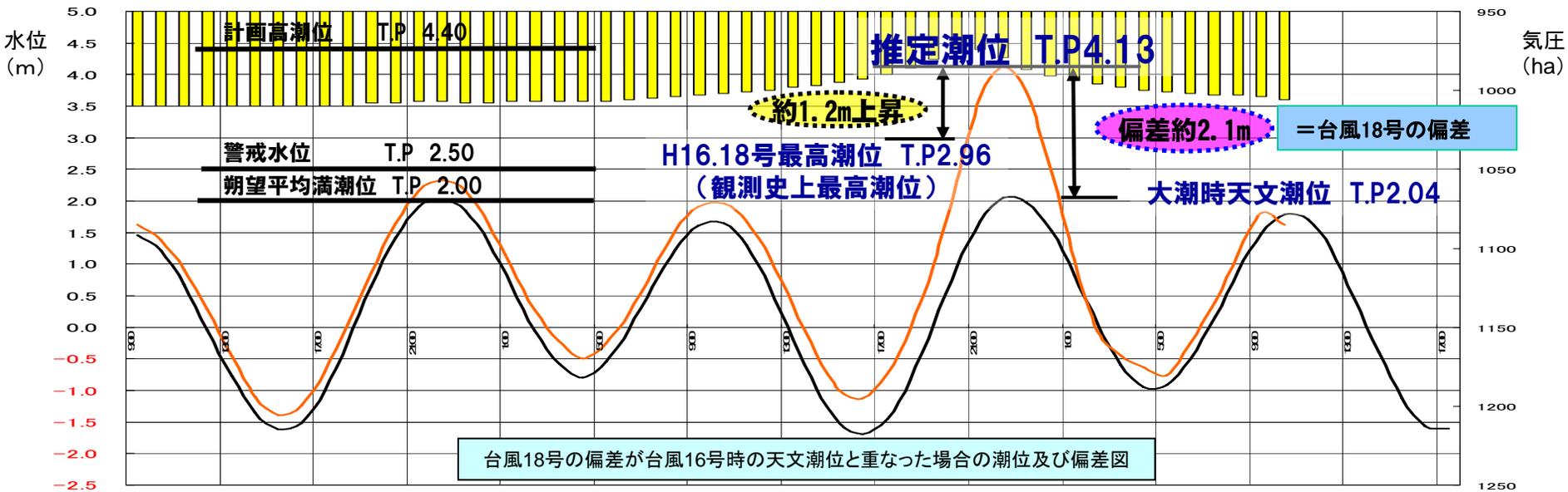
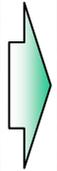
16.高潮対策について

■ 偏差2.1mをもたらした平成16年台風18号と大潮の満潮が重なった場合、広島市中心部全域が浸水

平成16年18号台風浸水被害状況



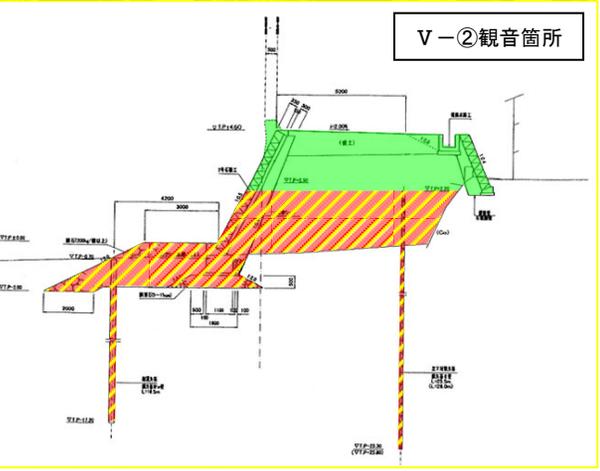
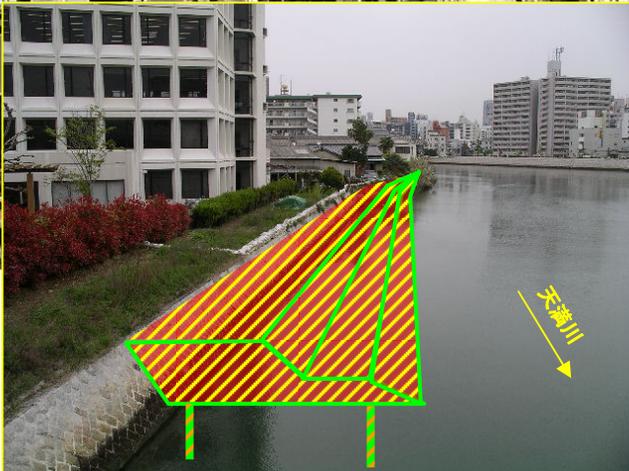
想定浸水被害区域(大潮の満潮位に重なった場合)



16.4 高潮堤防視察箇所(天満川)



- ・平成16年の台風18号では、江波観測所において、観測史上最高の潮位(TP+2.96m)を記録
- ・広島市内に甚大な浸水被害をもたらした
- ・当該地区では、堤防が低いため浸水被害が発生した



16.5 高潮計画とその効果

■ 台風期の朔望平均満潮時を基準とし、伊勢湾台風規模の台風が通過した場合の偏差・波高を加算し計画

高潮堤防計画と段階施工

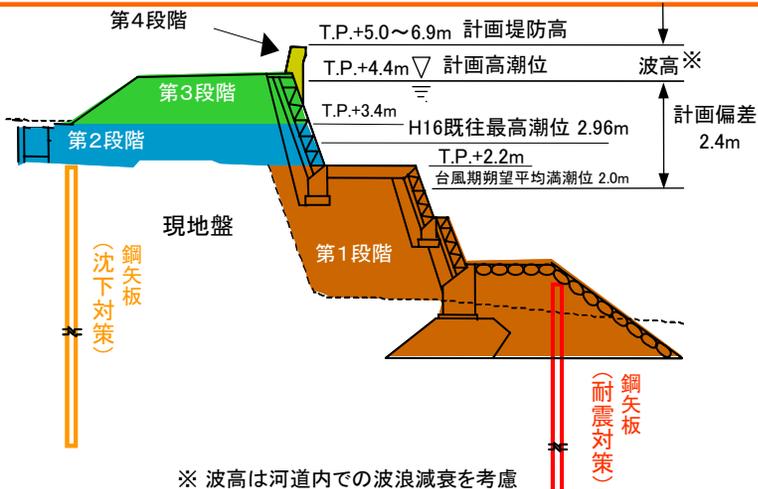
計画

高潮計画は、台風期の朔望平均満潮時に広島湾に最も危険なコース(昭和26年10月ルーパス台風)を伊勢湾台風規模の台風が通過した場合を想定

- ・ 台風期朔望平均満潮位 = T.P.+2.0m、計画偏差 = 2.4m
- ・ 計画高潮位 = 台風期朔望平均満潮位 + 計画偏差 = T.P.+4.4m
- ・ 波高 = 約0.6m ~ 1.5m
- ・ 計画堤防高 = 計画高潮位 + 波高 = T.P.+5.0 ~ 6.9m

施工

- ・ 軟弱地盤対策であることを考慮し、4段階施工
- ・ 近年の高潮被害を踏まえ、第2段階(T.P.+3.4m)までを先行して施工



高潮対策の効果

・ 高潮対策の推進により、浸水区域が大幅に減少



平成3年台風19号時の浸水区域



平成16年台風18号時の浸水区域

